

# 「道の駅」施策の検討状況

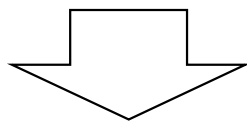
---

国土交通省 道路局  
企画課 評価室  
令和7年2月

## 第1ステージ(1993年～)

### 『通過する道路利用者のサービス提供の場』

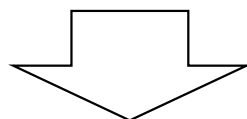
- 道路利用者が安心して休憩できる場を提供



## 第2ステージ(2013年～)

### 『道の駅自体が目的地』

- 地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展



## 第3ステージ(2020年～)

### 『地方創生・観光を加速する拠点』

- 各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速
- 「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気な地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献



＜大容量駐車場を有する「道の駅」＞  
※ (左)道の駅みぶ、(右)道の駅針T・R・S



＜観光客や家族が楽しめる空間の提供＞  
※道の駅「川場田園プラザ」



＜加工場の併設により地域雇用の創出＞  
※道の駅「川場田園プラザ」



＜防災セミナーの開催＞  
※道の駅「もてぎ」

### 新たな「道の駅」ネットワーク



### 第3ステージの概要



## 新「道の駅」のあり方検討会 提言

令和元年11月18日

### 第3ステージ（2020年～2025年）《地方創生・観光を加速する拠点》

「道の駅」を核に地方創生

持続可能な安定運営

### 「2025年」に目指す3つの姿

#### 1. 道の駅を世界ブランドへ （ニューノーマル対応）



＜これまでの主な取組み＞

- **キャッシュレス導入**
- **道の駅同士が連携したEC/通販**
- **施設の衛生環境の改善**

#### 2. 新「防災道の駅」が 全国の安心拠点に



＜これまでの主な取組み＞

- **「防災道の駅」制度の創設と重点支援**
- 地域防災力の強化のための **B C P 策定** や防災訓練等の実施
- **「防災拠点自動車駐車場」**の指定

#### 3. あらゆる世代が活躍する 舞台となる地域センターに



＜これまでの主な取組み＞

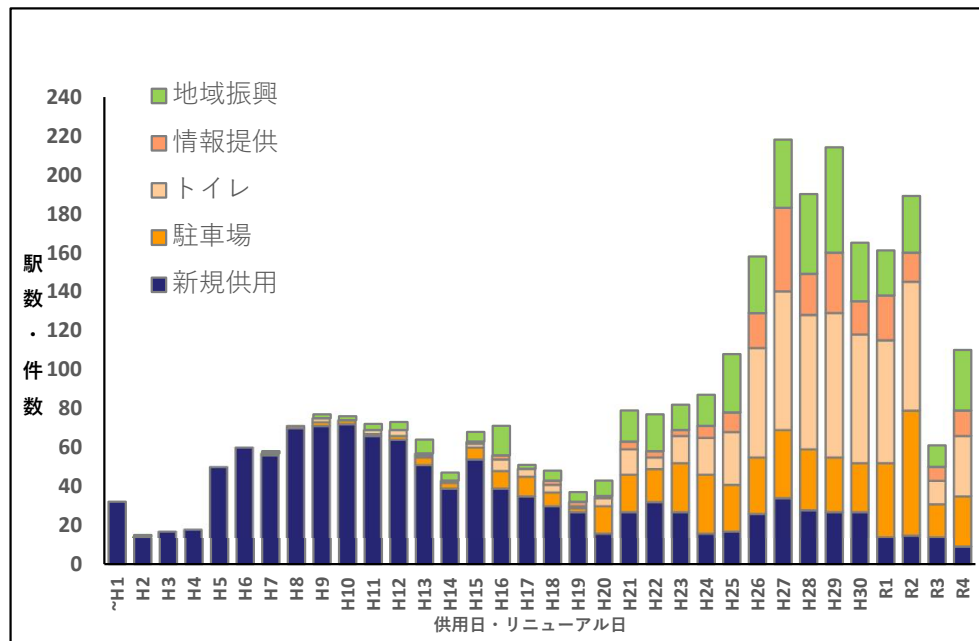
- **子育て応援施設**の併設
- **道の駅ニーズと民間シーズのマッチング**による地域の課題解決
- **大学等との連携**によるインターンシップや実習

### 3つの姿を実現する安定基盤の構築

国等からの支援の充実 全国連絡会のエージェント機能の強化

- 1993年の「道の駅」制度創設から30年が経過し、様々な特色ある「道の駅」が誕生するとともに、地域課題の解決に向けた様々な役割が求められるようになっている。
- 近年では特に、施設の老朽化・陳腐化、利用者増加への対応、魅力向上のための機能強化といった課題への対応のため、リニューアルに対するニーズが高まっている。
- 加えて、ドローン配送拠点や脱炭素の取組など社会的課題への対応も求められている。
- また、個々の「道の駅」ごとに抱える多様な課題への対応力の向上も必要である。

「道の駅」の新規供用とリニューアルの推移



ドローンの活用



「超」急速充電設備

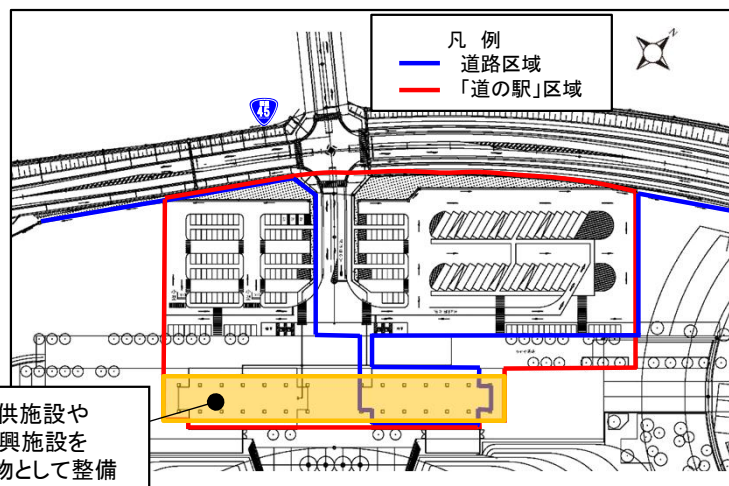
時代に合わせた柔軟な「道の駅」の活用が必要

## 「道の駅」に求められるニーズへの対応

### 施設構成等の自由度を高めるための 運用の見直し

#### 道の駅「登録・案内要綱」「当面の運用方針」 主な見直し内容

- 情報提供施設は、地域振興施設等と一体的に整備できることを明記
- 情報提供は、webを活用した情報発信も可能であることを明記
- 情報提供施設への案内員の配置は必須としない



道の駅「高田松原」(岩手県)

## 全国ネットワークを活かした現場支援

### 全国「道の駅」連絡会と連携した 現場支援の充実



駅長サミット



「道の駅」アドバイザー制度

### 関係団体との連携



大学との連携



道の駅「宇津ノ谷峠」(静岡県静岡市)



東海道「駿河2峠6宿風景街道」

日本風景街道との連携

- 能登半島地震では、「防災道の駅」の災害対応力の高さや、県境を越えた「道の駅」どうしの広域的な支援、高付加価値コンテナやドローン活用の有効性などが確認された。
- 一方で、広域防災の拠点である「防災道の駅」が全国に39箇所しかないことや、高付加価値コンテナの全体としての数の不足、「防災道の駅」以外の「道の駅」の災害脆弱性、災害対応に「道の駅」を活用する際に時間がかかることなどが課題として挙げられた。



「道の駅」の駐車場の利用制限



道の駅「あい」に集積した  
支援物資の積み込み



道の駅「のと里山空港」に  
届けられた支援物資



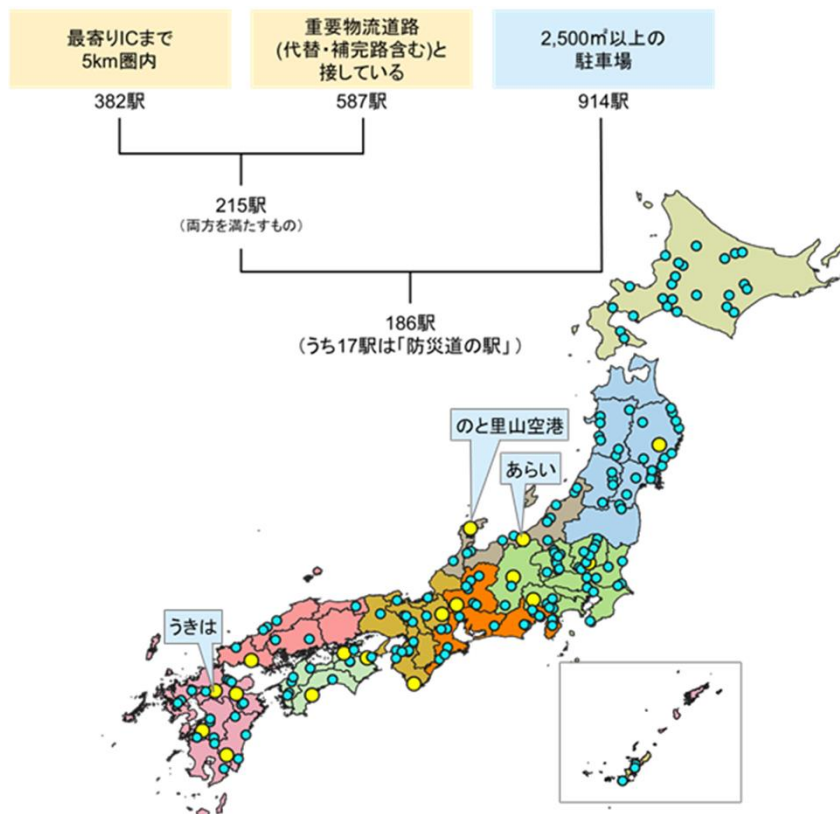
防災用コンテナ型トイレの活用

災害時に国の意志が反映できる体制強化が必要

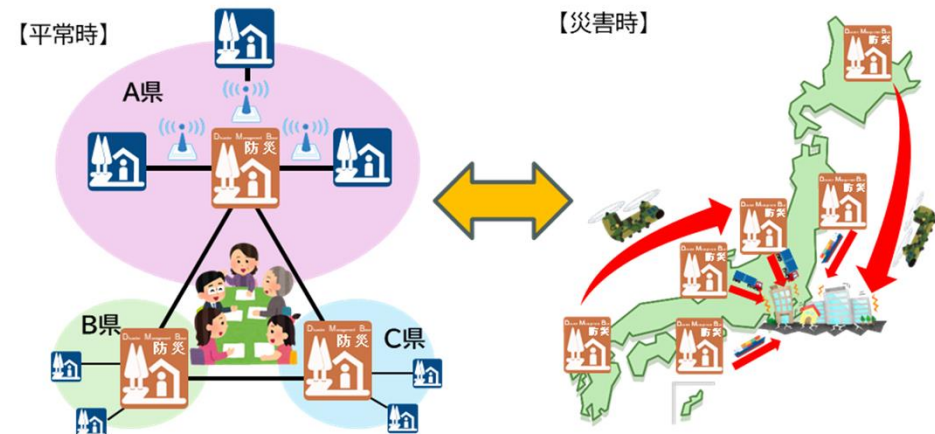
## 広域的な支援体制の戦略的な確保

### 「防災道の駅」選定要件の見直しと追加選定

広域的な支援拠点としての観点から、「防災道の駅」の追加選定を進める



### 「防災道の駅」のネットワーク化



「防災道の駅」間のネットワーク化のイメージ

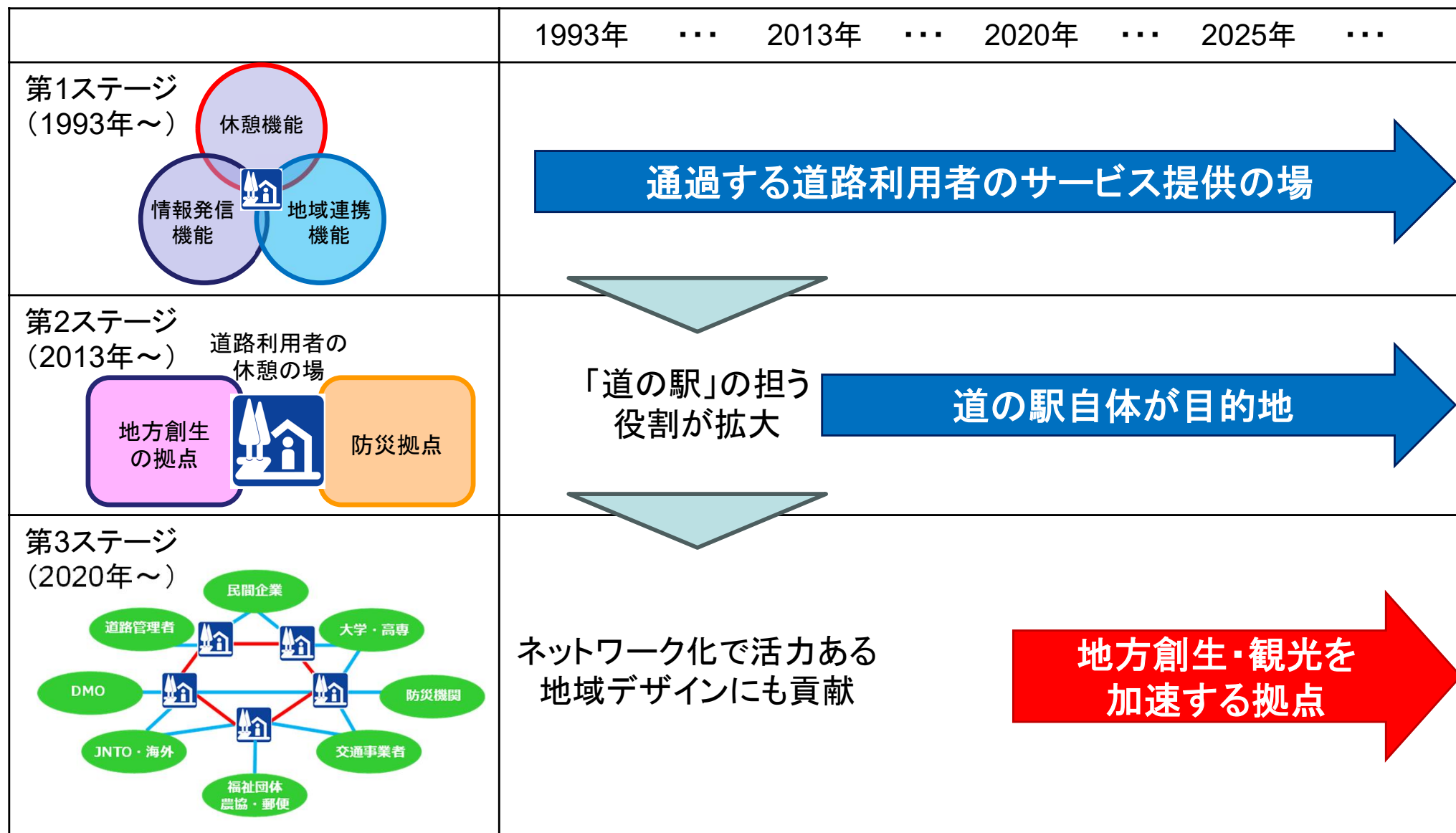
### 「道の駅」の防災機能を強化

- ・ 防災拠点となる「道の駅」の改築の代行
- ・ 災害時における「道の駅」の管理の代行
- ・ 災害時に被災地への出動が可能なトイレコンテナ等の設置促進(無利子貸付、占用基準の緩和)

# 「道の駅」第3ステージの推進

# 各ステージの目指す姿と関係性の再整理

- ステージは切り替わるものではなく、また、上下関係にもない。
- 第1～第3ステージまで機能が拡張され、かつ高度化されているもの。
- 2025年を期限として終わるものではなく、今後も「道の駅」の発展の基礎となるもの。



- 第2ステージと第3ステージは、「道の駅」が単なる「休憩場所」を超えて地方創生や観光の発展につながるものという点は共通する。
- 第2ステージは「道の駅」を魅力的にすることにより、結果として地方創生に導く取組であることに対し、第3ステージは「まち全体」を中心にコンセプトを共有し、「まち」と「道の駅」が戦略的に一体で進める取組である。

中心的な課題意識

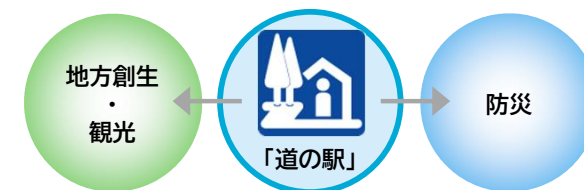
コンセプトの立て方

地域の発展の姿

第2ステージ

「道の駅」の発展

「道の駅」の  
魅力を高める  
コンセプト

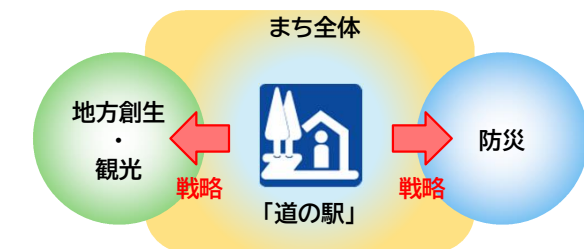


「道の駅」の取組が結果として  
「まち」に波及することもある

第3ステージ

「まち」の発展

「まち」全体の  
魅力を高める  
共通コンセプト

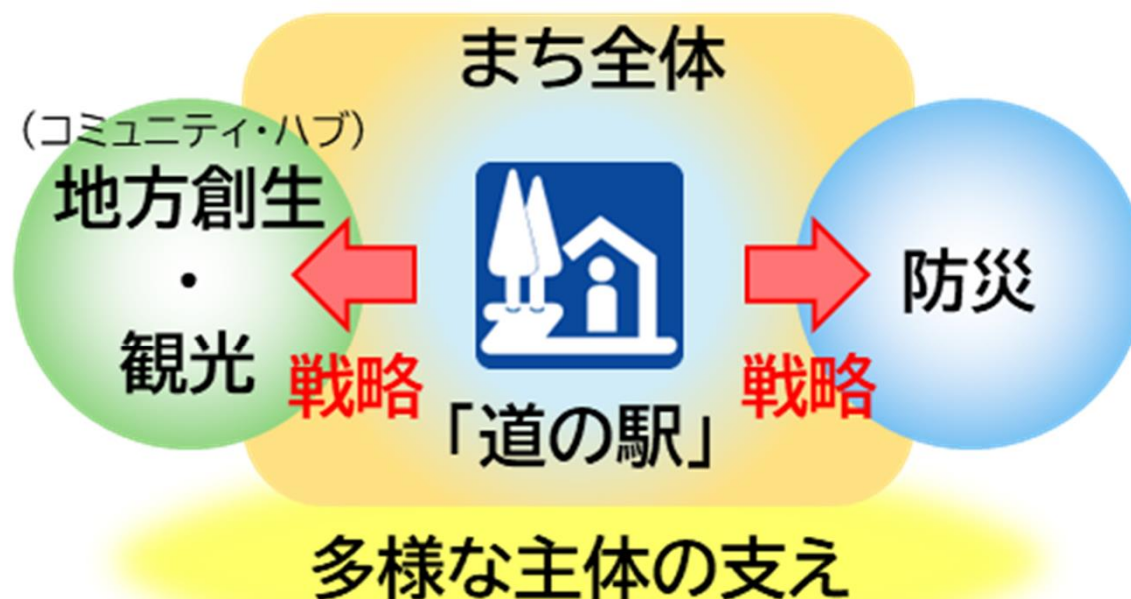


「まち」と「道の駅」が戦略的に一体で発展<sup>10</sup>

「道の駅」第3ステージとは  
「まち」と「道の駅」が一体で戦略的に連携してコンセプトの実現を成し遂げる取組

## 「道の駅」単体からまちぐるみの戦略的な取組へ

- 第3ステージの取組は、「道の駅」単体でなく、まちぐるみで進める必要
- 「まち」の目指すものと、「道の駅」の目指すものが合致している必要
- 戦略的なしかけにより、「まち」と「道の駅」の双方が共通の意志を持って取組を進めることが重要

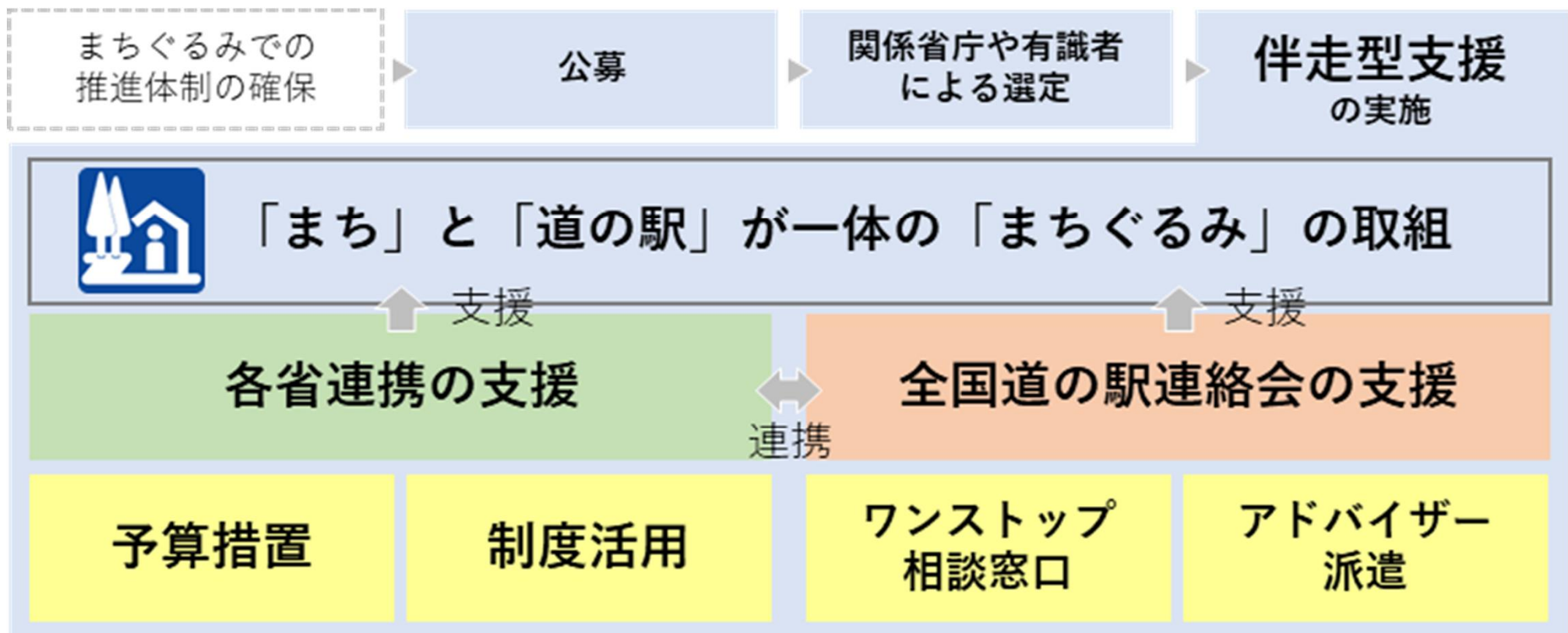


(概念図の意味)

住民や多様な関係者を含む「まち全体」の視点をもとに、  
「まち」と「道の駅」が互いに影響しあい、双方が共通の意志を持って戦略的に取組を実施

# 「道の駅」第3ステージ応援パッケージ

- 第3ステージのポイントである「まちぐるみの戦略的な取組」の実現に向けて取り組む自治体と「道の駅」に対し、関係省庁一丸での支援を推進するための制度を構築



- 「道の駅」第3ステージの推進に必要な省庁連携での支援のため、各省庁の支援制度やノウハウの共有を図ることを目的に、令和6年10月に『「道の駅」第3ステージ応援チーム』を設置。

## 【メンバー】

### 国土交通省

道路局 企画課 評価室  
総合政策局 社会資本整備政策課  
総合政策局 地域交通課  
国土政策局 地方政策課  
都市局 市街地整備課

### 観光庁

参事官(外客受入担当)  
観光地域振興部 観光地域振興課  
観光地域振興部 観光資源課  
国際観光部 国際観光課

### 内閣官房

新しい地方経済・生活環境創生本部事務局

### 内閣府

地方創生推進事務局

### こども家庭庁

長官官房参事官(総合政策担当)

### 総務省

自治行政局 地域政策課

### 農林水産省

農村振興局 地域整備課  
農村振興局 都市農村交流課

### 環境省

大臣官房 地域脱炭素事業推進課

【概要版】



(概要版)



(本編)